

第10回防衛施設整備に関する有識者会議
議 事 概 要

1 日時等

- (1) 日 時：令和6年4月9日（火）15時30分～17時00分
- (2) 場 所：防衛省庁舎D棟7階 第1会議室
- (3) 出席者：

【委 員】

藤井 聡 （京都大学大学院工学研究科教授）〔会長〕
上野 武 （千葉大学名誉教授）〔会長代理〕
谷口 綾子 （筑波大学大学院システム情報工学研究科教授）
成田 一郎 （（公社）日本ファシリティマネジメント協会専務理事）
横田 弘 （北海道大学名誉教授）

【防衛省】

大臣官房施設監、井上大臣官房審議官、施設計画課長、施設整備官、
提供施設計画官、施設技術管理官、施設政策室長、契約制度企画室長、
統括事業監理室長、防護施設研究室長

2 議 題

施設の強靱化の実現に向けて

3 議事概要

施設の強靱化に係る取組状況について、防衛省から説明した後、討議を実施

4 討議概要

（委員）現状のマスタープランでは基地の施策を個別に進めていかなければならないという事情は分かるが、本来マスタープランは建物の配置計画だけではなく、エネルギーや道路などのインフラ的要素も含め勘案しているものであり、あるゾーンだけ進めていくと、他の重要部分が取り残される事になり得るので注意する必要がある。

（委員）人員体制が重要である。マスタープランを評価していく方向性は見えていと思うが、それに必要な人員をどのように確保し配置するか。「施設の強靱化4兆円」の中で充当されるものか。

（防衛）予算増に見合った規模とは言い難く、積極的にアウトソーシングを進めていく考え。ただ、民間側も技術にかかる人材が不足傾向という問題があるところ、民間との連携をどのように実現させるか検討している。

(委員) これまでの施設整備にかかる情報をデータ化し、なおかつそれをデータベースとして関係部署間で共有することで、横串を刺したり、これに携わる職員の意識改革を初め、様々な改革ができる。決まったことをしっかりやっていくだけでなく、戦略的にもものを考えていく経営企画的な機能を持った部署や仕組みを作ることが大切。

(防衛) 企画戦略的な部分については、施設計画課施設政策室が担っており、当室にて施設整備の予算をしっかりと検討する体制を整えたところ。次期防衛力整備計画に向けた議論にあたっては、ご指摘の点を踏まえ、その機能を強化することも視野に入れながら検討していきたい。

(委員) 防衛施設の戦略というのは何なのかを概念化しておくことが必要。日本国の存続にとって何がクリティカルなのかということに基づき、守るべきものを守るということが極めて重要。この議論を契機として、そういうものに1歩でも2歩でも近づけるような防衛施設の取組を始めていただきたい。

(防衛) ご指摘を踏まえ検討していきたい。

(委員) 防衛施設における予防保全とは何なのか。一般的な用語に対する認識は持たれていると思うが、個別の防衛施設にブレイクダウンした時に、それぞれに違いが出てくるものであり、それについて議論した上でマスタープランに反映しておかなければならない。予防保全をしっかりやるためには、当初設計の段階からそのイメージを持っていることが必要である。

以 上